

大規模な本社倉庫シートハウスが完成

—— 1989(平成元)年



本社倉庫シートハウスが完成した本社全景



梅井倉庫



中島倉庫



キャトル(現 高須倉庫)

旭硝子(株)高砂工場で生産される製品(中間工業品)について、当社は古くから保管・輸送のすべてを一貫して請負ってきたが、取扱量の増大にともなって新たな倉庫を必要としたことから、1983(昭和58)年3月、本社事務所の隣接地48,783㎡を倉庫用地として購入。1989(平成元)年9月に本社倉庫シートハウスを完成した。しかし、その後も倉庫需要は増す一方で、中国がブラウン管の禁輸措置を取った2005(平成17)年頃の最盛期には、実に51ヵ所延べ17,000坪(56,100㎡)の倉庫を借りるという事態となった。



1990（平成2）年2月、高砂市の住居表示が変更されたのを機に、それまで創業の地においていた本社所在地を高砂市梅井5-4-1に移し、名実ともに現在地が本社となった。その10月、1950（昭和25）年に㈱塩谷組を設立して以来、社長として40年にわたる生涯現役を貫き、常に陣頭指揮を取って社業の発展に尽くした塩谷宏が永眠した。これにともなって専務取締役の塩谷宏朗が社長に就任、平成時代の舵取りをすることになった。バブル経済の絶頂期とバブル崩壊という極端な経済変動のなか、「破邪顕正」を経営理念とし、自社のみならず兵庫県建設業協会会長としてその発展に尽力した。



第二代社長 塩谷 宏朗



三菱製紙㈱高砂工場 独身寮新築工事



射撃の名手として知られ、国体で優秀な成績を収めてオリンピック出場候補となった塩谷宏朗

塩谷 宏逝去にともない宏朗が社長に就任

—— 1990（平成2）年



中部物流センター(現 京都物流センター)

相次いで営業所および物流センターを開設

—— 1992(平成4)年

この時期、社業の発展にともなって次々と拠点を増設していった。まず1992(平成4)年1月、建設部門の営業拠点として加西営業所を開設、同年9月には太子営業所を姫路市網干区に移転し、網干営業所(現 姫路物流センター)として新たなスタートを切った。翌年6月には、三菱電機(株)京都工場への対応を強化するため京都営業所(現 京都物流センター)を開設した。1995(平成7)年になると、公共工事受注拠点として神戸営業所を開設。その翌年には、兵庫県随一の木材プレカット工場であった(株)淀川の物流需要に対応するため、加西物流センターを開設した。



(株)淀川プレカット工場内の駐車場



加西物流センター



バブル経済の崩壊によって建設業界は大きな打撃を受け、市場の縮小による業績低迷で倒産する建設業者が相次いだ。ウインドセンター・シオタニ(株)も例外ではない。住宅新築戸数の減少により建材需要が大幅に減少したため、抜本的な経営の見直しを迫られることになった。塩谷宏朗が会長に、武彦が社長に就任した翌1994(平成6)年、その対策として塩谷運輸建設(株)が同社を吸収合併し、大幅な業務の合理化・効率化を実施した。これと時を同じくして、旭硝子(株)が住宅用の窯業系外装建材「ほんばん」を新発売したのにもない、当社ではその販売・設計・施工を開始した。



第三代社長 塩谷 武彦



八千代町公営住宅建築工事



加古川東ロックハイツ新築工事



高砂勤労者総合福祉センター A型新築工事



管球専用トレーラーウイング車

ウインドセンター・シオタニ株式会社を吸収合併 —— 1994(平成6)年